

第1回遠野市進化まちづくり検証委員会

— 議事概要 —

(開催要領)

1 日時 平成22年2月10日(水) 午後1時30分～午後4時10分

2 場所 遠野市役所3階大会議室

3 出席者

(1) 委員

委員長	山田晴義	岩手県立大学名誉教授、宮城大学名誉教授
委員	青木稔	武蔵野市事務事業見直し推進担当部長
委員	秋山信勝	秋山会計事務所代表取締役
委員	小野寺純治	岩手大学地域連携推進センター教授
委員	高力美由紀	宮城大学事業構想学部准教授
委員	工藤洋子	株式会社ジョイス監査役会事務局
委員	鈴木高繁	有限会社K・C・S代表取締役

(2) その他

遠野市	本田敏秋	市長 (社団法人遠野ふるさと公社理事長) (社団法人遠野市畜産振興公社理事長) (株式会社遠野テレビ代表取締役社長)
遠野市	及川増徳	副市長 (財団法人遠野市水道業務管理公社理事長) (社団法人遠野市畜産振興公社監事) (社団法人遠野ふるさと公社監事) (遠野アドホック株式会社監査役) (財団法人遠野市教育文化振興財団理事)
遠野市	藤澤俊明	教育長
遠野市	平野智彦	経営企画室長・総務部長 (遠野市土地開発公社代表清算人)
遠野市	三嶋邦明	総務部付部長 (株式会社遠野テレビ専務取締役)
遠野市	佐々木文友	健康福祉部長
遠野市	運萬勇	産業振興部長 (社団法人遠野ふるさと公社理事) (有限会社武蔵野交流センター取締役) (遠野市土地開発公社清算人)
遠野市	菊池武夫	農業活性化本部長 (株式会社リンデンバウム遠野取締役) (社団法人遠野市畜産振興公社理事)
遠野市	櫻井収	農業活性化本部事業推進部長 (社団法人遠野ふるさと公社理事) (社団法人遠野市畜産振興公社理事)

遠野市	立	花	恒	環境整備部長 (財団法人遠野市水道業務管理公社理事) (遠野市土地開発公社清算人)
遠野市	佐々木	政	嗣	環境整備部施設整備担当部長 (遠野市土地開発公社清算人)
遠野市	荒	田	昌典	文化政策部長 (遠野アドホック株式会社取締役)
遠野市	山	尾	幸司郎	市民センター所長・教育次長
遠野市	菊	池	林蔵	宮守総合支所長
遠野市	奥	寺	啓蔵	消防長
遠野市	菊	池	孝二	特別参与 (社団法人宮守わさびバイオテクノロジー公社理事長) (社団法人遠野ふるさと公社理事) (社団法人遠野市畜産振興公社理事)
遠野市	菊	池	文正	経営企画室経営改革担当課長
遠野市	阿	部	順郎	経営企画室副主幹

(議事次第)

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 委員長あいさつ
- 4 出席者自己紹介
- 5 日程説明
- 6 内容
 - (1) 遠野スタイルによるまちづくり2010(遠野市政概要)について
 - (2) 遠野市第三セクター等地域経営改革指針「進化し続けるまちづくり」について
 - (3) 遠野市第三セクター等の状況について
 - (4) 今後の進め方について
- 7 その他
- 8 閉会

(配布資料)

- ・ 遠野スタイルによるまちづくり2010
- ・ 遠野市第三セクター等地域経営改革指針「進化し続けるまちづくり」
- ・ 遠野市第三セクター等の状況について
- ・ 遠野市進化まちづくり検証委員会の進め方(案)

(議事概要)

1 開会

○平野経営企画室長

ご苦勞様です。各委員にはご多忙な中、遠野市進化まちづくり検証委員会にご出席いただき御礼申し上げます。只今から、第1回遠野市進化まちづくり検証委員会を始めさせていただきます。よろしくお願いいたします。

2 市長挨拶

○平野経営企画室長

開会にあたりまして、遠野市長からご挨拶がございます。

○本田市長

大変ご苦勞様でございます。遠野市進化まちづくり検証委員会として、本日、第1回目の会合を持つことができました。委員を快くご承諾いただきました各先生方に対し、心より御礼と感謝を申し上げます。

遠野の里に春を告げる「遠野物語ファンタジー」が、1月30日(土)から31日(日)にかけて行われました。約350名もの市民の手作りによる遠野物語を題材にした舞台「オシラサマ昇天」が3回公演され、述べ2,400人近い方が鑑賞し、涙あり、笑いありの舞台を楽しまれました。出演者の中には、この春に、進学・就職を控える高校3年生の姿もありました。

また、2月13日(土)には「遠野保育の集い」が予定されています。この春の卒園を控え、4月にはピカピカの1年生になる子どもたちが、一生懸命練習し、舞台狭しと遊戯・演技を披露する行事を控えています。文字どおり、遠野に春を告げるものです。

遠野の里も、氷点下10度を下回る日が続いておりますが、確実に春が近づいています。

この時季に、山田委員長をはじめ各委員には、大変お忙しい中、遠野の進化し続けるまちづくりに、それぞれのお立場からご意見・ご提言をいただくことをご快諾いただきましたこと、繰り返しになりますが、心より感謝・御礼申し上げます。

まちづくりにおいて「進化」は、大切にしたいキーワードです。改革、改善、見直し、再編という時代の流れは、避けて通れない大きな課題であり、これに挑戦していくという気概を持って、立ち向かっていかなければいけません。「進化」というキーワードで、地域経営のあり方を考えてみてもいいのではないかと常日頃、市民の皆様や市の職員とも議論をしているところです。「ただ強いものばかりが生き残る訳ではない。時代の流れ、社会情勢、経済情勢の中で、タイミングを失することなく、組織、団体、機関を時代に合ったかたちに持つことが大事なくみである。」と言われております。遠野市の人口は、現在約3万600人。少子高齢化の時代の流れをまともに受け、人口減少は避けて通れませんが、3万600人の人口が持つ都市の底力を見せることが必ずできるはずです。

市(行政)とパートナーを組んでいる第三セクター、機関・団体、市の委員会、審議会等、様々な組織が400以上あります。改めて数の多さを知るところです。それぞれの役目、機能がどう発揮されているか、本当に必要な組織なのか、きちんとメスを入れながら、それらの組織を進化させていきながら、遠野の底力が示せるまちづくりにしたいと思っています。委員の皆さんには、そのような切り口から、しがらみの無い中で率直なご意見・ご提言をいただき、市民協働で総合力が発揮されるまちづくりへと進化させていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

なお、会議の様子は、遠野テレビでのライブ中継を通じて、市民の皆さんとも情報を共有しながら、共に悩み、考えるしくみとさせていただいております。この点についても、ご理

解いただきたいと思います。

改めて、遠野のまちづくりにご支援・ご理解をいただきますよう、お願い申し上げます、挨拶とさせていただきます。

3 委員長あいさつ

○山田委員長

この委員会の委員長を勤めさせていただき、山田です。どうぞ、よろしくお願いします。

遠野市には、コミュニティセンター構想があった頃から、まちづくりの勉強させていただき、何十年か通わせていただきました。今回の仕事をさせていただけることは、とてもありがたいことと思ひ、改めて御礼申し上げます。

遠野のまちづくりは、非常に奥が深く、何度見てもよくわかりません。これまでも「遠野スタイル」「NIRAケーススタディ」で遠野市の施策を勉強させていただき、おぼろげながらも徐々に見えてきているところで、遠野の価値・魅力が、ますます感じられるようになってきました。

進化まちづくり検証委員会は、先程の市長さんのお話のとおりで、「進化」というキーワードは、単に第三セクター等を整理統合するだけではなく、総合的にまちづくりの装置を見直す、作り直すという気持ちが込められているといった意味で、楽しみに取り組みさせていただきたいと思っております。委員の皆様、市民の皆様のご協力をいただきながら、この課題に取り組んでいきたいと思っております。

最後に、ここ数年の間、かつて有名な町や村だったところがどうなったかを調査したことがあります。進化発展のないまちづくりは、必ず衰退していきます。その衰退の要因も見えつつあります。その点において遠野は、まだまだ進化し続けられる条件を持っています。

楽しみの気持ちを持ちながら、この委員会を進めたいと思ひます。

改めて、よろしくお願いします。

4 出席者自己紹介

○山田委員長

昨年の春まで宮城大学に勤め、定年退職をし、今はフリーです。

宮城大学の前は、岩手県立大学では創設時より6年ほどお世話になりました。

改めて、よろしくお願いします。

○青木委員

遠野市の友好都市の武蔵野市で事務事業見直し推進担当部長を務めさせていただいています青木と申します。よろしくお願いします。

「吉祥寺」と言うとお分かりいただける方も多いかと思ひます。武蔵野市は、東京23区の西隣に隣接し、人口は13万5千人です。行政の世界では財政力が豊かで、全国ベスト3に入ることによって知られています。

事務事業見直し担当は、2年前の平成21年4月に設置されました。なぜ、裕福と言われる武蔵野市でそういう取り組みを始めたかと言ひますと、昭和30年代後半から基盤整備が進み、上下水道、学校、福祉施設、文化施設が、40年、50年経ち、これから一斉に更新期を迎えます。それに向かつて、より強固な経営体質へと脱皮しなければいけないため設置されたものです。

平成21年度予算では、人件費相当額で2億5千万円。平成22年予算（ただし、審議はこれから）では、5億5千万円と、2年間で8億円の予算を節減してきました。

庁内では、必殺仕分け人と呼ばれております。本当は、怖くないと言ひますが…。

こうした経験を踏まえ、何らかのお役に立てればと思っています。よろしくお願いします。

○秋山委員

税理士の秋山と申します。昭和40年から盛岡で税理士事務所を開設しており、岩手県内の中小零細企業を中心に経営相談を承っています。その中には、公益法人もあり、それで声がかかったものと思います。

自分自身、障害もあり、障害者福祉に取り組んだ経験もあります。いろいろな面で接点があるのではないかと考えています。

どちらかと言えば、経営面の数字にこだわった辛口の発言があると思います。よろしくお願いします。

○小野寺委員

岩手大学地域連携推進センターの小野寺と申します。地域連携推進センターは、岩手大学の研究者が持っている知恵又は知的資源と地域とを結びつけることを担当させていただいています。

最近のキーワードに「イノベーション」があります。技術革新と訳されることが多いのですが、本来、異なった価値観を持ち込んで古い価値観を変えていくことと理解しています。そのため、社会的・経済的な変革がイノベーションという考え方を源泉に変わっていきます。その中の一つの役割として、産学官の異なるセクターの方が集まって、異なる立場から議論をし、新しい解を見つけ、新しい時代を見つけていくという立場から発言したいと思います。

元は県庁に25年間務め、7年前に岩手大学へ参りました。委員会だけでなく、具体的な実践問題は、大学の専門の先生と結びつけることも併せて考えさせていただきたいと思います。よろしくお願いします。

○高力委員

宮城大学事業構想学部の高力と申します。担当はマーケティングです。主にフードビジネス、流通ビジネスを主に担当しています。

今年4月に宮城大学に着任しました。それまでは、東京の民間研究所でフードビジネス、流通ビジネスを研究しておりました。その後、出向元の企業で、人事や経理を担当してきました。そこで培った視点を遠野市の進化するまちづくりにお役にたてればうれしいと思います。よろしくお願いします。

○工藤委員

株式会社ジョイスの監査役会事務局に勤めている工藤と申します。本田市長とは、岩手県の総合計画審議会の時からお付き合いさせていただいています。遠野市の委員会は、今回で3度目です。本田市長のまちづくりにかける熱意・情熱に共感を覚え、喜んで参りました。会社経営に関わっていますので、そういった知識・経験が役に立てられればいいと思います。

また、今は岩手県の出資法人の運営評価委員を務めています。県の第三セクターも50あります。検討していくうちに、いろいろな問題点も見えてきていますので、そういうことも活かしたいと思います。よろしくお願いします。

○鈴木委員

有限会社KCSの鈴木と申します。どうぞよろしくお願いします。昭和49年に岩手県人になり、今年36年目です。「どこの出身？」と訊かれますが、「岩手県人」と話しています。北上には、東京の大手企業から「時計部品の生産を担える工場を築け。」ということで、やって参りましたが、その後は会社が想定していた枠を超え、力を付けさせてもらいました。

退職後は、田んぼをやろうと土地を用意していましたが、岩手県や北上市、東北経済産業局からお声がけをいただき、県や市のために、いろいろさせていただいております。遠野市とのお付き合いは、県南広域振興局の関係で3年前から木工団地に入らせていただき、勉強

させていただきます。

第三セクターは、北上市も10年以上前から取り組んでいます。当時、北上市の第三セクターの審議会委員を仰せつかり、何社か担当いたしました。公平・公正な目で眺めさせていただき、少しでもお役に立てればという思いです。よろしくをお願いします。

○平野経営企画室長

倉原委員からは、業務の都合上、欠席とのご報告がありました。

ここで、遠野市の出席者を紹介します。

(市側出席者の紹介)

※ 市長、副市長、教育長、総務部付部長、健康福祉部長、産業振興部長、農業活性化本部長、農業活性化本部事業推進部長、環境整備部長、環境整備部施設整備担当部長、文化政策部長、宮守総合支所長、教育次長、消防長、特命参与、経営企画室長、経営企画担当課長を順で紹介

5 日程説明

○山田委員長

それでは、進めさせていただきます。

内容に入る前に、今日のスケジュールをお話いただけますか。

○阿部副主幹

(委員会の日程について説明)

○山田委員長

本日の内容は、この委員会の趣旨の理解と、検証の対象について確認していただくこと、今後の進め方について検討いただくことが中心となります。

6 内容

(1) 遠野スタイルによるまちづくり2010(遠野市政概要)について

○山田委員長

遠野スタイルによるまちづくり2010の説明をお願いします。

○平野経営企画室長

(資料「遠野スタイルによるまちづくり2010」に基づき説明)

(2) 遠野市第三セクター等地域経営改革指針「進化し続けるまちづくり」について

○山田委員長

続いて、経営改革指針2009について説明をお願いします。

○菊池(文)経営改革担当課長

(資料「遠野市第産セクター等経営改革指針2009」に基づき説明)

○山田委員長

説明がありました2件について、委員の皆様から、ご質問等伺います。

○小野寺委員

全部で400程の関係機関・団体、委員会・審議会等があるようですが、400全てをこの委員会で議論するのでしょうか。或いは、いくつか抽出するのでしょうか。

また、検証の対象の関係機関・団体へ文書を通知し、それを検証するシステムにおいて、PAN-DO-CHECK-ACTION(PDCAサイクル)について、どうお考えか伺いたいと思います。

○菊池(文)経営改革担当課長

検証の対象数が膨大な数になっています。関係機関・団体や委員会・審議会等は、これが

らすべて調査を行います。ある程度ふるいにかかけ、市民に直結する団体について絞込み、ワーキングチームにお諮りしながら、検証委員会へお諮りしたいという考えです。

なお、現段階におきましては、数の絞込みはまだという状況です。

最終的にまとめる際には、文書で投げかけた課題については、1年、或いは2年後のお検証が必要と考えます。それら進捗状況、達成状況は、第三セクター、市所管課、検証委員会事務局の市経営企画室、そしてこの検証委員会へも報告しながら取り組みたいと思います。

○小野寺委員

すべてを遡上にあげて議論することは難しいですが、どのようなものがあるかといった基礎情報は、是非いただきたいと思います。概要でもあれば、重なっているかどうか見ることでもできます。市では近過ぎるでしょうし、第三者の目からなら見えるものもあると思いますので、作業が大変とは思いますが、情報だけはいただきたいと思います。

○菊池(文)経営改革担当課長

わかりました。

○鈴木委員

資料「遠野スタイルによるまちづくり2010」には、「行政の価値観変革の必要性」とあります。これに対して、次の「遠野物語の魅力と先人の遺産①」以降の説明がこの必要性の説明に成っているとは思えません。これらの結び付きを、どう捉えたらいいのでしょうか。

○平野経営企画室長

資料「遠野スタイル2010」には、遠野市の将来像「永遠の日本のふるさと」とあり、それを進めるために、5つの大綱を示しております。この5つの大綱は分野別になっており、その中の1つに「ふるさとの文化を育むまちづくり」があります。その中で、遠野の魅力ある発信を様々な分野で発信しなければならないという意味を込めて取り上げたものです。

○鈴木委員

5つの大綱があるのであれば、②ページ以降の説明を①ページ全体との関連付けを順序立てて説明されると、よりわかりやすいと思います。

○山田委員長

遠野市の総合計画の大綱に対応しながら説明をいただかないと、わかりにくいというご指摘です。

○平野経営企画室長

その点では、資料の校正が不十分でした。(総合計画まで含めた)流れが説明できるようにしたいと思います。

○山田委員長

5つの大綱に従った施策は、他にもまだまだたくさんあります。今日の資料ではそこまで示されていないということですね。その補完は、どのようにいたしますか。

○菊池(文)経営改革担当課長

次回の検証委員会の際に、ご説明申し上げます。

○青木委員

第三セクターや関係機関・団体、委員会・審議会等の見直しの基本的なスタンスは、資料「遠野スタイルによるまちづくり2010」と「遠野市第三セクター等地域経営改革指針」とを重ね合わせると、経営効率が悪いところを切って捨てるのではなく、むしろ新たな公共としてのパートナーとして、必要な整理統合をしながら力をつけてもらい、行政を超えるような担い手として育ててもらおうということによろしいでしょうか。

○山田委員長

そのとおりです。

○菊池(文)経営改革担当課長

その考えでいます。遠野なりのかたちで作り上げていきたいと考えています。

ただし、内容によっては、経営的、或いは内容的に厳しい視点も併せ持つこともあると思います。新しい公として遠野の社会資本がどういう方向性を担えるかという視点から、ご議論いただきますようお願いいたします。

○山田委員長

今までのやりとりで、この検証委員会のスタンスの再確認がされたことと思います。

○高力委員

資料「遠野スタイルによるまちづくり2010」では、遠野市の魅力と先人の遺産とあります。今後の議論において、遺産は遺産としても、ここ10年、15年で培ってきた強みを洗い出していくことも重要と思います。今の遠野市のポテンシャルの洗い出しが、次に向けて役に立っていくのではないかと感じました。

○山田委員長

大事な視点ですね。

○工藤委員

3月までの2回の会議で、第三セクターに関する結論を出すスケジュールなのですか。

○菊池(文)経営改革担当課長

予定では、2回で内容を議論していただきたい内容になっていました。ただし、日程もずれ込み、スケジュールも厳しいです。市といたしましても、拙速に結論を出すべきではないという認識も持っております。議論の進み具合を見ながら、ご検討いただきたいという含みを持っております。

○工藤委員

是非お願いしたいです。今後の道筋をつける基になる資料のほか、団体へのヒアリングや現地を見る時間的余裕もない中で結論出すことは、拙速と思います。

目に見えない財産や、そこで働いている人の気持ちなど十分理解できるとは思えません。いいかたちで結論を出すための配慮をお願いしたいところです。

○菊池(文)経営改革担当課長

これからも議論の過程で、いろいろなご要望もあると思いますが、内容を踏まえ、可能な範囲で対応いたします。

○鈴木委員

与えられた資料から判断する上で、結論を出そうとするときに大事なことは、市民の皆さんがどう思っているかだと思います。市民の皆さんが「よし、(この団体を)これからも大事にして、自分達のものにしていこう。」という意識さえあれば、市民の皆さんが参画される事業になっていくと思います。そういうことがわからないまま、ジャッジすることが本当にいいことか。市民のみなさんの気持ちが説明の中に加えられるのでしょうか。

○菊池(文)経営改革担当課長

遠野市第産セクター等経営改革指針2009で説明のとおり、市民ワーキングチームが加わるかたちで議論の進め方の組み立てを考えており、この中からご意見をいただきたいと思っています。

また、検証委員会の様子は、市内全域に遠野テレビを通じて公開されています。また、ホームページでも議事概要を公開していく予定です。可能な限り市民の皆さんからのご意見を反映できる環境を整備したいと考えます。

○鈴木委員

今年度中に市民ワーキングチームの内容を検証委員会に提示できるのですか。

○菊池(文)経営改革担当課長

3月までにできるかどうかは、はっきり言えませんが、検証委員会の議論の進み具合も見ながら、市民ワーキングチーム発足後、議論に参画できる体制としたいと考えています。

○山田委員長

検証委員会を3回行った後に、市民ワーキングチームでの議論があり、最後に検証委員会の最終判断とあります。つまり、4回目の検証委員会は、市民ワーキングチームの考えを把握した上で結論を出すかたちということでしょうか。

○菊池(文)経営改革担当課長

実質、4回目の検証委員会がそれに当たります。

○山田委員長

3回目の検証委員会で、13の第三セクターの評価がうまくでない場合、その予備も有り得るという解釈でよいですか。

○菊池(文)経営改革担当課長

委員の皆様の意向を踏まえ、議論を進めていただいでよろしいです。

○秋山委員

今の段階は、第1次評価と第2次評価が終った段階となるということですか。

○菊池(文)経営改革担当課長

第1次評価と第2次評価までは終了しております。第3次評価として、検証委員会に検討をお願いするものです。

第1次評価と第2次評価において、該当の第三セクターや市の担当課からのヒアリングを事務局で行っております。ヒアリングの内容から、新たに浮かび上がった課題を含めて、第3次評価の参考資料として委員の皆様にはファイルのかたちで提供しております。

今は第3次評価の段階です。

(3) 遠野市第三セクター等の状況について

○山田委員長

遠野市第三セクター等の状況について、説明をお願いします。

○菊池(文)経営改革担当課長

(資料「遠野市の第三セクター等の状況について」に基づき説明)

※ 説明された市出資法人等は、次のとおり

1. 遠野市土地開発公社
2. 財団法人遠野市水道業務管理公社
3. 有限会社武蔵野交流センター
4. 株式会社遠野
5. 株式会社遠野テレビ
6. 株式会社リンデンバウム遠野
7. 社団法人遠野ふるさと公社
8. 社団法人遠野市畜産振興公社
9. 遠野アドホック株式会社
10. 社団法人宮守わさびバイオテクノロジー公社

※ 説明された公益法人等は、次のとおり

1. 財団法人教育文化振興財団
2. 財団遠野国際交流協会
3. 遠野市観光協会

※ 検証委員会での検証の対象外とするものは、次のとおり

1. 有限会社武蔵野交流センター 出資比率が低いため
2. 遠野市土地開発公社 平成12月25日に解散し、現在清算事務手続中のため
3. 遠野市水道業務管理公社 今年度末をもって解散するため

○山田委員長

これから検証する団体等についての報告がありました。

ここで、委員の皆様からのご質問・ご意見を伺いたいと思います。

○青木委員

現在、指定管理者制度としている、あえりあ遠野、遠野ふるさと村、馬の里等の施設の指定管理の期間は、いつからいつまでですか。その期間が終了した場合、公募等を行う方針等があるのでしょうか。例えば、民間会社との競争をさせる考え方があるかどうか伺います。

また、公益法人制度改革で一般財団法人となるか公益財団法人の認定をとるのか、5年以内の選択を迫られています。それに関して、国際交流協会、文化振興財団における現段階での方針はどうお考えですか。

なぜ尋ねるのかと申しますと、似たような公益法人は、武蔵野市にもあります。公益法人の認定を取ると、財務処理などの事務負担が大きくなり、事務局体制が肥大化する一方です。例えば、ホールディング制のようなものにして事務を一括できないか考えているところです。

○菊池(文)経営改革担当課長

指定管理の期限は、平成25年度までとなっております。各施設の期間につきましては、再度確認させていただき、報告いたします。指定管理の期間終了時における民間会社との競合までは、現段階で方針は決まっていません。検証委員会での議論を踏まえて、その方向性を見出したいと思います。

また、公益法人制度改革につきましては、検証の対象としている各法人においても、説明会に参加するなど、内部で検討しているところです。既に課題も何点が浮かび上がっています。例えば、独立した法人ではあるのですが、事務局の業務を市職員が職務で担っており、その是非の指摘もされております。5年後の公益法人認定のみならず、一般法人になるとしてもハードルが高いようです。この検証委員会での提言を踏まえ、詰めていきたいと考えております。

○山田委員長

公益法人認定までには、時間の制限もあるようですが、検証委員会の検討スケジュールが来年度で大丈夫なのですか。

○菊池(文)経営改革担当課長

平成25年11月までに登記を済ませる必要があります。公益法人認定を想定する場合、所定の手続きには、1年半から2年程度かかると考えております。一方、一般法人だとすれば、それほど時間がかからないと思われれます。今秋に結論が出せられれば、手続きを踏みやすいのではないかと考えています。

○山田委員長

第3次評価のために提示いただいた資料は、経営状況や数量的なものについてわかりませんが、それぞれの団体がどういうビジョン、どういう意気込み、或いはどんな点で苦勞しているのか、うまくいっているのかそうでないのか、分かりません。特徴や欠陥など肌で感じられるようなものであればありがたいのですが、それは難しい作業になりますか。

○菊池(文)経営改革担当課長

資料として用意できるかどうか、検討させていただきたいと思います。

○山田委員長

場合によっては、直接話を聴いてみたいものもあります。厳しいスケジュールのところ恐縮ですが、関心のある団体に対して、関心のある委員がヒアリングできる時間を確保できないか検討いただきたいと思います。

○菊池(文)経営改革担当課長

2回目以降の委員会にも、第三セクター等の関係者や市担当部長、課長にも出席いただきたいと考えています。委員の皆様からのご質問は、原則として事務局で受け答えいたしますが、委員会から直接話を聴きたいという申し出がある場合は、それに対応できるようにしたいと思います。

○秋山委員

純利益や正味財産評価額が表示されていますが、そのバックグラウンドである数字の中味が、減価償却後の数値なのか、或いはどれだけ減価償却したのかをお伺いしたい。

減価償却は一般化されたものですが、このほかには、退職給与についての給付引当金があります。税法上損金算入されておらず、中小零細企業の場合は任意に積み上げている状況です。これが積み上げた後の数字なのかどうかは大きな問題。退職金は大きな金額になります。

また、賞与引当金も税法上損金参入できません。自主的に積んでいる法人とそうでない法人との差異もあり得ます。

○山田委員長

今のご指摘について、フォーマットなどがありますか。

○秋山委員

引当金の部分を、特に明細として出していただければよろしいです。ただし、単年度ばかりではわかりませんので、そこは横並びで示してもらえればと思います。

○山田委員長

ご指導いただきながら、資料を用意いただければと思います。

○高丸委員

検証委員会のスタンスと申しますか、どういうことを考えながら読み込むか。総合評価として、問題点の解決策を探るものか、何を結論として導くために資料を読み込むか、その視点などのご意見をいただきたいです。

○菊池(文)経営改革担当課長

市としましては、最終的な方向性を決定するために、存続、見直し(ただし、どういう見直しなのかの条件が付くと思われる。)、出資引き上げ、廃止の項目を考えています。

そこまで至るかどうかがあると思いますが、それに伴うご意見・ご提言をいただいてもかまいません。あくまでも、最終的な方針は、市が行います。限られた時間ではありますが、検証委員会には、地域の総合力として、どうあればよいか、第三セクターが個々にどういう役割を担えばいいのかという視点でご協議・ご検討いただきたいと思います。

○工藤委員

ファイルの資料を次回までに読み込んで、その点を考えて次回の委員会で話をすればいいということですか。第3次評価の参考資料のファイルが一番使われるものになるのですか。

○菊池(文)経営改革担当課長

原則は、委員の皆様にご提示したファイルに基づいてお願いします。

ただし、それだけではわからぬことも想定されますので、補足資料の部分は可能な限り、随時明らかにしていきたいと思えます。

○工藤委員

例えば、今日は担当されている部長さん方も出席されているようですので、どこか1か所

ご説明をいただきたいと思うのですが、いかがですか。

○山田委員長

他にご意見がなければ、時間の範囲内で説明いただきたいと思います。

○小野寺委員

第三セクターは、本来民間サイドで成り得ないものを、公共性から判断されて作られるものです。例えば、土地開発公社は単独では成り立ちませんが、一方、市への波及効果があるため、あえて継続するものもあります。その波及効果の捉え方が難しいとは思いますが、定量がありがたいのですが、定性でもかまいません。まずは、我田引水でも結構ですので、どんどん出して欲しいです。波及効果を考えれば、市にとってなくてはならないものなのかもしれないというアウトプット（二次波及）、アウトカム（三次波及）を、事業主体或いは市の担当課からも話して欲しいと思います。

また、公的資金での支援状況の説明がありますが、法人の売上が雑入として市に入っているもの、税を投入しているもの、諸収入が回り回って市の財政に入っていて、それを財源に法人に資金が投入されているもの、国や県の制度的な支援があつて市の財政への影響が少ないものなど、公的資金の投入状況も明らかにしていただければと思います。

○菊池(文)経営改革担当課長

公的資金での支援状況につきまして、あらかじめ用意しました資料は、純粋な市からの補助金、管理委託料、業務委託料のみ記載しております。それぞれ、整理させていただきたいと思います。

また、第三セクターの思いの部分まで加味された資料にはなっておりません。その思いをどのような形でお示しできるのか、資料として提出するか、或いは会議の場でお話させていただく方法がよいのか検討したいと思います。

○鈴木委員

各年度において、どのような経営計画をもっていたのかを知りたいです。

また、経営責任が明確になっていることは資料からわかりますが、この人達はどのような権限があるのか。経営がうまくいってなくても、権限を持たせたらうまくいくかもしれないこともあり得ます。

経営が実際に変化している様子は読めますが、特にお金。総合計金額。今まで、どれだけお金を使ったかは、資本金ではわからない。どれだけの規模で事業が行われてきたのか。どれだけお金が動いたのか。その総額。借入金の大きさについても。またどう返済しようとしたか、しているのか。

まずは、経営計画が知りたいところです。また、総額として、どんな規模で運営されてきたのかを知りたいです。そして、与えられた権限も知りたいです。

○菊池(文)経営改革担当課長

経営計画につきましては、第3次評価の参考資料のファイル中の基本情報シートに記載しておりますが、ほとんどの団体は計画がない状態です。むしろ、それが課題として浮かび上がってきたところです。

経営陣の権限につきましては、これまでの調査では踏み込んでいません。組織体制、人的体制、事務手順の確認をした程度です。経営を担う事務局もない団体もあります。常駐・常勤のコントローラーがおらず、それで経営が成り立つかということも課題だと考えます。

お金の出入りの総額は、把握できるかどうかを調べた上で、検討させていただきたいです。

○平野経営企画室長

委員にお配りしております第3次評価の参考資料のファイルの見方について、社団法人遠野市畜産振興公社を例に、担当している農業活性化本部長から説明させていただきます。

○菊池(武)農業活性化本部長

社団法人遠野市畜産振興公社について説明します。ここは、放牧部と馬の里と2つに大きく分かれた事業を展開しており、放牧部は、和牛の生産振興、主に公共牧野の管理運営を遠野市から受託し、その利用料を徴収しています。馬の里は、45億円投じて整備した施設。育成調教部門（競争馬）と乗用馬の部門に施設と役割が分かれています。

放牧部は、農協との共同事業として取り組まれてきたので、万が一にも損失が生じた場合は、市と農協がその損失の責任を負ってきました。従いまして放牧部は、積み重なる損失は残してきていない状況です。

馬の里は、乗用馬部門と競走馬部門とあるのですが、乗用馬部門は、遠野は馬が歴史的に大きな位置を占めています。馬事振興を通じた交流人口の拡大や産業振興をめざしてきたこともあり、乗用馬部門は公益的な役割が大きいということで、支援を継続してきました。一方、育成調教部門は、当初は馬の里の職員が競馬の競走馬の調教を行ってきたのですが、競走馬預託数が減少する中で、採算性が問われてくるようになりました。45億円を投じた施設でもありますので、何とか競争馬部門を甦らせるべく、さまざまな改革に取り組んできたところです。当初は、経費節減に取り組みましたが、それにも自ずと限界があります。そこで、大胆な民営化に取り組むにあたり、厩舎を貸し出す方式に変更しました。いわゆる施設のリース事業です。現在、民間の事業体が3団体入っております。平成20年度の決算状況にありますとおり、競争馬部門はプラスに転じました。

しかしながら平成21年度は再び利用頭数が減少し、非常に厳しい状況に追い込まれています。遠野市の支援は、競争馬部門については、繰越損失の解消に向け、財政支援を行ってきました。この4年間で1億円程度の支援を行ってきました。

現在さらにもう一步進めた改革を考えているところです。施設を貸し出す方式から、完全に民間で経営してもらえないか模索しているところです。

○山田委員長

ありがとうございました。

委員からの資料に対する要求は、検証する団体ごとに違うと思います。

まずは、次回の検討対象の団体を読んでいただき、数日以内にでも必要な資料の要求をして、次回の委員会に間に合うように資料を用意いただく方法で進めることとしたいのですがよろしいですか。

他に質疑等なければ、質疑は以上にさせていただきたいと思います。

(4) 今後の進め方について

○山田委員長

それでは、今後の進め方について、ご説明をお願いします。

○阿部経営企画室副主幹

(委員会の日程について説明)

※ 次回の会議で検証の対象とする団体は、次のとおり。

1. 株式会社遠野
2. 株式会社遠野テレビ
3. 株式会社リンデンバウム遠野
4. 社団法人遠野ふるさと公社

※ 次回の会議日程(案)を以下のとおり提示。ただし、第2回の会議日程は調整がつかず、改めて日程を調整することとされた。

第2回 ~~2月23日(火)~~ → 改めて日程を調整する。

○平野経営企画室長

検証委員会での議論の進め方は、山田委員長さんをはじめ、委員の皆さん方のお考えのもとで結構です。

○山田委員長

柔軟に対応していただけるということですね。委員の皆さんには、これからも遠慮なくご意見をいただければありがたいです。

それでは、次回の会議までに、対象の4団体の資料を読み込んでいただいて、なるべく早く必要な資料の要望を、事務局の経営改革担当課長さんへ出していただきたいと思います。

○菊池(文)経営改革担当課長

第2回目の会議日程につきましては、改めて山田委員長とも協議をした上で、各委員さん方とも日程調整させていただきたいと思います。

○山田委員長

それでは、次回の会議日程は、改めて日程を調整させていただくこととします。

2月中の開催は難しいですね。

貴重なご意見をいただき、これからの向け、力になると思います。

大変、ありがとうございました。

7 その他

○平野経営企画室長

その他についてですが、事務局では特に用意してございません。

委員さん方から特になければ、閉会させていただきたいと思います。

8 閉会

○平野経営企画室長

大変ありがとうございました。

次回の検証委員会の開催期日は、改めて日程を調整した上で開催させていただきたいと思っています。

長時間に渡りご議論いただきました。

これをもちまして、第1回進化まちづくり検証委員会を閉会といたします。